

第39回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会議事要旨

1 日 時 平成29年11月22日(水) 18時35分～20時30分

2 会 場 千城台公民館

3 出席者

(1) 委 員 19人 *委任欠席 3人(佐々木委員、時松委員、中島委員)
*代理出席 2人(石井委員⇒代理：岩澤氏)
(大澤委員⇒代理：後藤氏)
(木俣委員の代理として山本氏が途中まで出席)
(鈴木努委員の代理として中村氏が途中まで出席)

(2) 事務局 5人 *教育委員会 企画課 伊原課長、西課長補佐、塚田主査、川島管理主事、吉田主任主事

(3) 傍聴者 20人

4 報告・議題

(1) 【報告1】平成29年度児童生徒数推計について

(2) 【報告2】 前回協議会以降の動き

① 企画課

② 各2校連絡会等からの報告

(3) 【議題1】千城台北小学校と千城台西小学校の2校連絡会について

(4) 【議題2】次回開催日時・場所

5 會議資料

(1) 資料 1 : 「平成 29 年度児童生徒数推計 (精査後)」

(2) 資料2:「南小と旭小の2校連絡会等の概要(報告)」

(3) 資料3:「北小と西小の2校連絡会等の概要(報告)」

(4) 参考資料：「協議の進め方と主な協議概要」

(5) 參考資料：「千城台北小學校・千城台西小學校」 關連資料（精查後）

(6) 提案資料：「2校連絡会（千城台北小・千城台西小）からの提案（概要）」

6 議事の概要

(1)【報告1】平成29年度児童生徒数推計

次のことが報告された。

- ・ 7月の第37回協議会で精査中としていた千城台西小学校の児童生徒数推計値を、実情にあわせて算出し直した。

(2) 【報告2】 前回協議会以降の動き

次のことが報告された。

・9月20日の平成29年教育委員会会議第9回定例会にて、千城台南小学校と千城台旭小学

校の統合について、統合校の設置場所を現千城台旭小学校の位置とし、平成33年4月に統合新設校を開校することが議決された。

- ・その内容を千城台地区に広く周知するため、各小中学校、幼稚園・保育園等に10月30日の周知文配布を依頼し、10月29日の自治会会長会で各自治会での周知文回覧をお願いした。

(3)【議題1】北小と西小の2校連絡会からの提案について

統合校の設置場所について、次回開催の協議会（全体会）において、2校の説明（プレゼン等）を踏まえ、各委員の投票により決定することとした。具体的な投票方法については、今後の2校連絡会での意見内容等を集約のうえ、次回全体会で報告・提案することとした。

(4)【議題2】次回開催日時・場所

次回の協議会（全体会）開催予定日を1月24日（水）にすることとした。

※後日（11月30日）全委員了承の上、開催予定日を1月31日（水）に変更

7 発言要旨

(1) 企画課長挨拶

委員の皆様におかれては、お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。各々所用があるなか、千城台の子どもたちのためにお集まりいただいていることに感謝申し上げます。特に北小と西小のPTA役員の皆様や正副会長には、9月から11月にかけて7回以上2校連絡会や打ち合わせ等で協議を進めさせていただいた。毎週のように千城台公民館での打ち合わせの時間をいただき、閉館時刻まで熱心に千城台の子どもたちと地域のために真摯な協議を進めていただいたことを報告させていただく。その成果は着実にあったと認識している。

本日はその報告と2校連絡会からの提案があるため、委員の皆様におかれては、報告をお聞きいただき、充実した協議をお願いしたい。

(2) 報 告

報告① 平成29年度児童生徒数推計について

〈菅原議長〉 まず、3報告（1）「平成29年度児童生徒数推計」について事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 7月の第37回協議会で精査中としていた千城台西小学校の児童生徒数推計値を、実情にあわせて算出し直した。9月の分科会で説明させていただき、全委員にその分科会の資料と議事要旨を送付させていただいている。参考としてご覧いただきたい。

〈菅原議長〉 事務局からの説明に対して、質問等はあるか。

〈委員一同〉 質疑なし

報告② 前回協議会以降の動き

〈菅原議長〉 次に、3報告（2）「前回協議会以降の動き」について事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 ・前回の協議会（全体会）は7月であり、9月の協議会（分科会）を経て、本日の協議会（全体会）となる。

・9月20日の平成29年教育委員会会議第9回定例会にて、千城台南小学校と千城

- 台旭小学校の統合が議決された。具体的には、統合校の設置場所を、現千城台旭小学校の位置とすること、平成33年4月に統合新設校を開校することが議決された。
- ・その内容を千城台地区に広く周知するため、各小・中学校、幼稚園・保育園等では10月30日に周知文の配布を、また自治会には10月29日の自治会会長会で依頼し、回覧をお願いした。各委員へは周知文を開催通知と併せて送付させていただいている。
 - ・南小と旭小については、引き続き、統合に向けた具体的な準備を進めている。
 - ・北小と西小については、集中的に協議の場をもち意見集約を進めてきたが、詳細は後ほど報告がある。

〈菅原議長〉 次に各団体からの報告に移る。7月の第37回協議会全体会、9月の第38回協議会分科会以降、各団体で話し合った内容について報告をお願いする。各2校連絡会関係校以外に報告のある団体はあるか。

〈自治会関係〉 特になし

〈評議員関係〉 特になし

〈東小・両中学校PTA〉 特になし

〈菅原議長〉 なければ、次に2校連絡会関係各校からの報告を、今回も旭小から願います。

〈旭小・中村氏〉 旭小では、新しい小学校づくりに向けた意見聴取を、PTA役員でアンケートを取り集約している。今後は、11月27日に南小との2校連絡会を南小で行う予定である。

〈村上委員〉 資料2に記載のとおり、9月7日、19日に保護者で旭小の見学会を実施した。見学会に参加いただいた保護者の方からの意見を現在集約しているところであり、学校と協議のうえ、これからの2校連絡会等で出てきた意見を報告していきたい。先ほど旭小からの報告にもあったとおり、11月27日に2校連絡会を南小で予定している。内容はPTA組織の違い等について協議する。児童の交流として、1年生が御成公園で交流授業を実施したり、お互いに行き来できるようバザーの時期をずらしたりして交流している。南小では見学会を実施したことについて、適正だよりを配布し、見学会に参加できなかった方へも校舎の改修に関するアンケートを行っている。そういったものを含めて今後の協議材料としていきたい。

〈西小・山本氏〉 西小は、前回9月の協議会分科会以降、集中的に北小と協議を重ねてきた。開催日時等は、資料3で示されているとおりである。毎週火曜日の夜間に、千城台公民館にて現状を踏まえた方向性の打合せ、決定方法に関する意見交換などを、のべ7回にわたり実施した。これまで、2校連絡会等での話し合い内容が伝わってこないとの意見もあったため、その一部については事務局より開催通知とともに情報提供がなされたかと思う。話し合いの中心は、具体的な統合校の設置場所をどのように決めるかであったが、方法論でも西小と北小はなかなか折り合わず平行線で、最終的には、お互いに歩み寄り、2校の考えを一致させてきた。後ほど、議題のなかで2校から提案をさせていただきたい。なお、前回9月の協議会分科会でも述べたところであるが、北小からの声かけもあり、今一度立ち止まって、統合を先送りについて検討したことを付け加えさせていただく。

〈村山委員〉 北小は、今の西小からの報告のとおりであるが、資料3のとおり打合せや連絡会を重ねてきた。PTA本部の方にもご苦労をかけたと思う。内容としては、統合校の設置場所を決めることに議論を重ねた。後ほど提案をさせていただくが、真剣に考える

ほど、8年間で情勢が変わってきた部分もあった。数年前に全体会で統合が議決されたことに従って、具体的に統合場所を決めるこの段階にあたっては、どうしても改めて確認をしたうえで前に進んでいきたいと考えている。そういったことも含めて2校連絡会で話し合ったことを報告させていただく。

〈菅原議長〉 報告（2）について、質問はあるか。なお、北小と西小に関する質問等は、次の議題の中で一括して伺い協議するので、それ以外であるか。

〈委員一同〉 質疑なし

議題（1） 北小と西小の2校連絡会からの提案について

〈菅原議長〉 それでは、引き続き、4議題に入る。本日の議題は2点で、（1）北小と西小の2校連絡会からの提案について（2）次回の開催日時・場所についてである。まずは、事務局から説明をお願いする。

〈事務局〉 議題（1）として、北小と西小の2校連絡会からの提案について協議いただき、具体的な筋道を立てたい。なお、両校は、2校連絡会の考えを尊重するとの昨年度の合意を踏まえ、集中的に協議を重ねたことを申し添える。また、（2）として、次回開催日時等を確認させていただきたい。次回も全体会での開催予定である。

〈菅原議長〉 議題（1）「北小と西小の2校連絡会の提案について」を協議する。北小・西小の2校連絡会から提案をお願いする。

〈村山委員〉 先ほども述べたが、提案に先立ってご意見をいただきたいと考えている。北小と西小の2校連絡会の思いとして、正副会長にも相談させていただいたが、北小としてはこれまで構築してきた交流授業や環境の変化に弱い児童がいるという側面があり、西小では適正規模に迫る児童数の増加傾向がある。そういった双方の事情もあり、中学校の統合議論が再開されるまで統合を先送りするというのも、一つの考えとしてある。そのあたりについて委員からご意見を伺ったうえで、統合が必要とのことであれば先に進むこととしたいという両校の思いがあるが、いかがか。

〈菅原議長〉 今、北小と西小から確認があったが、これに対していかがか。

〈富澤委員〉 第29か30回で議決された北小と西小を統合するという決定事項を反故にすることなのか。現状が変わってきたので、統合を再検討したいというのが両校の思いなのか。

〈村山委員〉 今一度ここで統合することが地区として必要であるということを、委員の皆様からご意見をいただき、再確認のうえで先に進みたい。両校とも統合について真剣に考えており、数年前に議決されたことだから統合するということではなく、適正配置の協議が始まってから8年経過しており、今の子どもたちのために本当に統合が必要なのかということをご意見いただきたいと考えている。

〈角田会長〉 本日欠席の中島委員から、今日の会議は、旭小の改修工事が終わって新しい学校がスタートとするときに、北小・西小の統合校開校には同時にスタートラインに立ってもらうことに向かって、少しでも前進した会議にしてほしいと言付かっている。

〈高野委員〉 統合はすべきである。8年経過したこの段階で原点にかえて議論をする段階ではない。児童数の推移をみても増えて維持していくほどの材料はない。行政は学校運営のコストを効率的に行っていくべきであり、物理的に統合が困難であるならば別だが。統合してこの児童数で学級運営が可能であるならば、当然統合すべきと考える。

〈片岡委員〉 8年かけて議論してきたことを覆し原点に戻るといふ根拠がわからない。どんな社

会環境の変化があったのか。決定を覆す必要性は何なのか。

〈村山委員〉 資料１に示されているとおり、西小の精査後推計では、平成３５年度に２４０名で１・２年生は１学級だが３年生以上は２学級ずつとなっている。精査前ではもっと少なかった。

〈関委員〉 西小の児童数が増加するというのはわかるが、北小は単学級のままで、学年によっては十数人という年度もある。果たしてこれが教育上適正な学級の人数なのかと考えると、もっと多くの人数で教育を受けた方がよいと思う。西小の現状は変化がみられるが、北小は何も変わっていない若しくは減少傾向になっているので、そのあたりをどう考えるのかというところだと思う。

〈村山委員〉 理由としては、北小の保護者の間でも時間が経過していつまでも決まらないということについて焦りもあり、統合しなくてもよいのではと考える保護者も出てきている。また、児童数が増加することによるメリットも理解しているが、少人数によるメリットも捨てがたいという考えもある。

〈関委員〉 過疎地であれば別だが、３５年度推計でみると千城台地区で１校だけ特に小規模であることは少し異質に感じる。

〈富澤委員〉 正直なお考えであると思う。ここまで西小が適正規模に近づいているから統合しなくてよいというが、西小も平成３２年度には児童数のピークを迎えて、以降は減少していく。現状学区外において宅地開発が見られるが不確実なところが大きく、西小の児童数だけ考えるのではなく、５年、１０年後を考えていくと、北小も併せて考えていかないといけないと思う。

〈村山委員〉 北小として真摯に検討した結果を伝えさせていただいている。あくまで、委員の皆様のご意見を確認したいということである。

〈奥田委員〉 保護者の方が現状維持を望むのは、どこの学校でも同じである。保護者も子どもも今の環境を変えることは気持ち的にも勇気がある。だからこそ、円滑な統合を目指して、行事等学校間での交流を深めているところだと思う。変わりたくないという気持ちではなく、前向きに考えていかないとなかなか改革は進まない。南小・旭小も同じ意見は出ていたと思う。視野を大きくして、千城台地区全体を考えて、子どもたちがどう過ごすかということを検討するべきだと思う。

〈村山委員〉 我々は、後ろを向いて発言したわけではないということは理解いただきたい。

〈奥田委員〉 西小もピーク後は児童数が減少していく可能性もある。北小も児童数の傾向が増えていくことは考えにくい。１クラス１１人、全体１０５人では、特別支援との交流があったとしても、通常の授業に支障が出ると思う。また中学校や高校に進学した時に、４０人学級となった時のギャップについていけるか懸念される。長い目で考えた方がよいと思う。

〈村山委員〉 統合はした方がよいというお考えでよいか。

〈奥田委員〉 統合すべきだと思う。８年たって原点に戻るのではなく、もう少し前向きに考えるとうよいと思う。

〈菅原議長〉 いろいろ意見があったが、西小も北小も、改めて統合すべきなのかどうかという答えがほしいのだと思う。今まで２校連絡会で議論があったが、統合すべきかどうかについての委員の意見があれば、２校の委員も納得できると思う。

〈村上委員〉 結論が難しいことだからこそ年月がかかっていると思う。南小が旭小と話を進めていくなかで一番考えていたのは、千城台地区の活性化と子どもの教育環境の整備であ

った。児童数の推移もそうだし、南小では耐震されていない校舎というハード面も整える必要があった。いろいろな主張があったから、長く年月がかかっている。ただ、どこかで決断しなければならない時がくるということで、平成33年4月に照準を合わせて議論を重ねた。千城台地区の活性化には統合は必要だと思う。南小・旭小もそうだし、北小・西小も然りだと思う。今ではなく、5年後、10年後には地区として必要だと思う。難しいかもしれないが、そういったところを考えて、お互いで着地点を見いだせないか。南小・旭小よりも時間もあるので、そういった部分も踏まえて検討できると思う。原点に立ち戻るといこともわかるが、むしろ早急な問題だという思いで私たちは議論してきた。

〈鶴岡委員〉 統合することによって学級数が増えれば、教職員も増え、子どもたちの人間関係も増え、そのなかで人間性が育ってくる。環境そのものも変わっていかないといけない。そのなかで子どもたちも成長していくべきである。また、各学校単位での自治会組織のこともあるが、これからの時代にあっては、単学級で留まるというのはあり得ない。現状維持が安泰だろうと思うのではなく、前に進まないといけない。したがって、決断をするべきだと思う。

〈菅原議長〉 意見を聞いて、北小・西小としてはどうか。

〈木俣委員〉 千城台地区の活性化という部分にはあるが、一度立ち止まって今の現状を振り返ったうえで村山委員と話し合った結果、今回ご報告させていただいた。児童数増加の裏には、学校があるから人が引っ越してくるという背景もあると思う。例えばこれから盛り上がりとしている地域から学校が無くなった場合を考えると、その地域が将来的に栄えていくのかどうかということを視野に入れて話をさせていただいている。具体的には、西小の周辺での宅地開発が急速に伸びており、西小があるからこそ子育て世帯の転入があると思う。そう考えると、西小が残っていた方が地域として活性すると思うが、そのあたりはどうお考えになるか。

〈阪下委員〉 西小学校区だけではなく、千城台地区全体で考えてほしい。西小が無くなるということではなく、新しく学校が誕生するということである。南小・旭小でもなくなるという意識は持たないようにしようと南小の保護者とも話をしている。無くなるというのはとても後ろ向きな印象であり、いかにして地区に新しい学校を作っていくかという議論の場だと思うので、もう少し視野を広げてほしい。

〈角田会長〉 前回の分科会以降、2校連絡会等を7回開催しており、その途中で統合の先送りが急に出てきたように思うが、それは何故なのかと皆思っていると思う。7回の内容があまり伝えられていない中で、立ち止まりたいという最終的な考えのみが先に出ている。私が会長になる以前から、時間はかかっているが、この協議会では丁寧に議論を進め、全員が合意しないと前に進まない状況で開催されてきた。私が会長になってからも、最初の全体会において小学校は3校とすることで合意され、前回の分科会でも北西の両校委員にこのまま統合議論を進めてよいか確認した後から、先送りの話が出てきた。どういう経緯かはわからないが、両委員からは確かに相談を受けて、今日報告してもよいと話したところである。報告した結果、皆さんからそれはおかしいという意見が出ているが、それに対して、まだ先送りとする考えでよいのかどうかお聞きしたい。今日立ち止まりたいという話を出して、多くの委員からそれは違うのではないかという意見が多勢を占めた場合は、両委員はどういう答えを出すつもりでいたのか。

- 〈村山委員〉 先ほども申し上げたとおり、一番の目的は委員の皆さんのご意見をお伺いするというものであった。
- 〈角田会長〉 考え抜いた提案に対して、委員の皆さんがこれは違うということになったら、立ち止まりたいという考えは続くのか。
- 〈村山委員〉 この協議会は千城台地区全体について協議する場であるので、地区として統合を進めた方がよいという意見であれば、統合しなければならないという後ろ向きな捉え方ではなく、統合の方向で進めていく必要があると思う。
- 〈木俣委員〉 2校連絡会を7回実施したが、その中で今回のようなご意見をいただくことは、想定していた。今回は、あくまで皆さんの意見を伺いたいという思いで出させていただいた。村山委員も納得しているとは思いますが、この会議で決めることなので、突っぱねるのではなく、先へ進みたいと思う。
- 〈角田会長〉 7回の2校連絡会を重ねた結果、ここで一度立ち止まりたいという提案に対して各委員はどう考えるかということで、何人かの委員からもっと前へ進むべきだという発言があった。他の委員はどうか。
- 〈片岡委員〉 先送りについて納得できる理由がない。大規模な住宅開発が計画されたということがあれば別だが、大きな社会情勢の変化があると思えない。今までどういったことが議論されてきたのが疑問。
- 〈村山委員〉 決して後ろを向いた報告ではない。皆さんの統合を進めるべきというご意見が再確認できた。
- 〈木俣委員〉 北小と同意見である。ご意見が確認できたので納得できた。
- 〈村山委員〉 改めて、7回で話し合った統合校の設置場所の決定方法について、提案させていただく。これから提案資料を配布する。
- 〈菅原議長〉 今各委員の手元に資料が渡ったかと思うが、北小・西小からの提案について願います。
- 〈木俣委員〉 2校連絡会では、どちらの学校を統合校の設置場所とするか、選ぶことができなかった。根本にある子どもたちのよりよい環境づくりに向けて、統合には両校賛成しており、なるべく早い環境整備を実現させるために、平成30年7月に統合に関する要望書を提出することを目的に、今年度中にどちらの学校を設置場所にするかについて取り組んでいきたい。来年の1月下旬ごろの全体会において設置場所を決定できればと思う。今後の2校連絡会の中で詳細は決めたいと思うが、案として投票のような手法になるのではないかと思う。南小と旭小の際も投票で決定したが、その時に5分間のプレゼンのようなものを実施していた。それと同じようなかたちで西小と北小の際もプレゼンのような説明を実施した方がよいのか、委員のご意見を伺いたい。
- 〈菅原議長〉 まず、提案の1点目である統合校の設置場所の決定を、全体会での投票による方法で決定することについて、ご意見を伺いたい。
- 〈片岡委員〉 結果がどうであれ、両校は投票結果に従うという理解でよいか。
- 〈村山委員〉 2校連絡会で結論が出なかったことを踏まえての今回の提案であるため、結果に従いたい。
- 〈富澤委員〉 投票方法も2校連絡会から提案があるということでよいか。
- 〈村山委員〉 1月下旬の全体会での投票実施を目的に、これからどのような投票にするかを協議していく。
- 〈富澤委員〉 投票の仕方によって、プレゼンが必要かどうかに影響してくると思う。

- 〈村山委員〉 各委員は所属する団体の代表として協議会に参加されている。基本的には、投票の結論を持って参加されることと思う。プレゼンを行うことはよいことだと思うが、皆さん慎重な答えをもって出てくるという前提があるので、不要なプレゼンであれば実施する必要がないという意見もあると思う。そのあたりはどうか。
- 〈阪下委員〉 次回の会議に結論を持ってくるとのお話であったが、私としては説明を聞いてからどちらに投票するかを判断するという考えである。
- 〈村山委員〉 所属する団体の総意として判断されるという理解でよいか。
- 〈木俣委員〉 個人ではなく所属する団体の意見としての結果を出してもらいたいと考えている。
- 〈富澤委員〉 西町自治会の代表として協議会に参加しているが、代表者として一任されている。自治会全体の意見を吸い上げるためにアンケートをとるということはしないが、どちらがよいかを真摯に検討し判断するので、事前にプレゼンを実施してほしい。
- 〈山崎副会長〉 投票でよいかどうかとプレゼンを実施するかについて議論が混同しているように思うので、まず投票でよいか確認が必要ではないか。
- 〈菅原議長〉 投票により統合校の設置場所を決定することとしてよろしいか。
- 〈委員一同〉 異議なし
- 〈菅原議長〉 異議がないので、次回の全体会で投票により統合校の設置場所を決定することとする。北小・西小は引き続き２校連絡会で具体的な投票方法を協議するようお願いする。次に、投票を行う前に、北小と西小それぞれから、各校の特色について改めて説明、プレゼン等が必要かどうかご意見を伺いたい。
- 〈高野委員〉 プレゼンはどのようなものを想定されているか。
- 〈村山委員〉 そちらについては今後両校で協議していくが、まずは実施の有無についてご意見を伺いたい。
- 〈高野委員〉 実施した方がよいと思う。
- 〈片岡委員〉 会議資料に両校の比較資料があるが、これ以外に学校の思いとして訴えたいことがあるならば、プレゼンで述べてもらった方がよいと思う。
- 〈鈴木努委員〉 旭小と南小では、保護者の協力を得て一緒にすることが決まったので、北小と西小もそうなってほしいと思う。
- 〈村上委員〉 プレゼンを実施することはとても良いことだと思う。ただ一番苦しかったのは、決定事項についての理由がわからなかったことである。実施するのであれば、プレゼンの結果を所属団体へ持ち帰って、検討のうえ投票という流れであってほしい。投票は時間等も限られた中で最終的な手段として仕方がないと思うが、投票結果に対してどういう意見があったのかということがわからないと、経験上、地域や保護者への説明等に苦慮することになると思う。投票方法については、南小・旭小の時とやり方を変えてもよいと思う。
- 〈山崎副会長〉 今回、参考資料が入っており、協議概要や各校の概要が示されている。今までの経緯や比較対象になる項目が全て記載されている。両校に対して質問等があれば、ここで確認してよいのではないかと。学校としての思いは投票当日でよいが、資料等をみながら質問があれば、各校へ伺ってもよいのではないかと。
- 〈菅原議長〉 両校に対して質問等があれば伺いたい。
- 〈片岡委員〉 南町自治会長としてこの場に出席しているが、自治会としては跡地の利用についての関心が高い。投票に関しては、自治会長としての判断に従うと言われており、結果的には資料を見て投票することになる。必ずしも自治会全体としての意見は持ち合わ

せていない。西小・北小のプレゼンを聞いたうえで自分で判断する考えである。

〈村山委員〉 全体会で投票にて決定するという提案をした一番の理由は、どちらかの学校が無くなるということについて、教育委員会に一任する等いろいろ選択肢があった。全体会に返そうという判断にしたのは、千城台に住んでいる地区の代表により地区の総意という判断を得るからこそ納得できるというのが一番の理由である。地区の代表として判断をお願いしたい。

〈片岡委員〉 記名なのか、無記名になるのか。

〈村山委員〉 それはこれから協議していきたい。

〈角田会長〉 投票でやることを決定し、事前にプレゼンを実施するというので進めてよろしいか。その内容は2校連絡会で検討し、南小・旭小の経験を踏まえた方がよいというアドバイスも十分考慮して進めていただきたいと思います。

〈木俣委員〉 村上委員からお話があった、プレゼンのみで協議会を1回実施して、後日改めて投票するという考えはいかがか。

〈角田会長〉 事務局としてはどうか。

〈事務局〉 議事の2点目に次回の日時等となっているが、2校連絡会で協議を進めていく中で、統合校の設置場所を決定した場合、その年度内に各校における説明をする場を設けた方がよいということが話題になった。逆算をすると、3月は卒業式を控えてPTAが繁忙であるため、2月下旬頃に説明を実施したいと考えている。そのため、1月下旬での全体会という提案をされた経緯がある。例えば1月下旬に、連続でプレゼン、投票とお集まりいただくことが現実的に可能かどうか委員にお諮りしたい。難しいということであれば、山崎副会長からもお話があったように、この場で両校へ質問をしていただくということも大事かと思われるので、そのあたりを協議いただきたい。

〈菅原議長〉 事務局から説明があったように、この場で質問等確認しておきたいことがあれば伺いたい。

〈高野委員〉 参考資料の比較表の中に将来の宅地開発計画は入らないのか。北小や西小の付近で開発がされていると思うが、その内容を含めた資料を追加できないか。

〈事務局〉 宅地開発計画については、児童生徒数の推計に影響してくるため、市に寄せられている開発協議は、現状の児童生徒推計に反映をさせている。現状空地があること、土地利用転換が図られることなどの可能性はあるかもしれないが、確定していない要素については推計に含まれていない。確定している計画については推計に反映されているものとしてご理解いただきたい。

〈高野委員〉 西小と北小の違いを検討するなかで、排水の良さという点を考慮することもできる。

〈石原委員〉 今一度本日の決定内容について、これからの方向性の共通認識として再確認した方がよいと思う。

〈角田会長〉 統合校の設置場所の決定方法は、次回投票とすることで既に共通理解が得られていると思う。両校のプレゼンを実施することも共通認識でよいと思う。最後にプレゼン実施後に時間をおいて投票するかどうかという点の確認が必要であると思う。2校連絡会で今年度中に決定するという話がでていることや学校行事のスケジュール等を考慮すると、時間的余裕はないのではないかとこのところであるがどうか。

〈鶴岡委員〉 プレゼンを実施してから数日間も考えることではない。プレゼン後、すぐに投票でよいと思う。

〈村山委員〉 村上委員の意見にもあったが、プレゼン後に持ち帰って再度投票ということであれ

ば、先ほど申し上げたように、地区の判断として納得できる要素が増えていくと思う。

〈鶴岡委員〉 南小・旭小もプレゼンを行ったが、数日後にまた集まって投票するという必要性はないと考える。プレゼンを聞いてすぐに判断できる。

〈角田会長〉 南小・旭小の時はプレゼンを行ってすぐに投票だった。例えば、今回はプレゼンを行った後に、プレゼン内容を各委員が整理する時間を少しおいてから、投票ということではどうか。

〈片岡委員〉 今後の自治会の役員会にて今日の結果は伝えるし、団体としての決定は一任を得て、投票に臨むつもりである。

〈村上委員〉 内容を聞いて意向が変わるという要素があれば、真摯にプレゼンは行われると思う。

〈角田会長〉 委員の中にはプレゼンを聞いて考えたいと発言があった。

〈村上委員〉 時間的余裕がない中でも、一度時間を設けるのもよいと思う。角田会長からもお話があったように、プレゼンから少し時間をあけるという手法もよいと思う。決定事項の理由が分かればよい。

〈山崎副会長〉 先ほど2校からは投票の方法は改めて検討するという提案があったので、方法は南小・旭小とは異なるものになるかもしれないし、投票理由を付記していただくものになるかもしれない。それは2校連絡会で考えてくるものだと思う。いずれにせよ、プレゼンから1週間で気持ちが変わるものではないと思う。プレゼンを聞いた方が、皆さんの思いもわかるし、聞きたい方がいらっしゃるので、それを聞いてこちらに決めたという理由につながることもあると思う。説明責任を果たす上でも、投票の理由を南小も知りたかったと思う。例えば、敷地面積とか児童数とか、それだけでも知りたければ、今回は2校の説明に付け加えて投票を考えていただくということで、よいのではないかと思う。

〈角田会長〉 プレゼン後、即日投票でよいと思う。皆さんの意見を踏まえて、投票用紙の書式等を考えてもらうということがよい。

〈菅原議長〉 会長からもご意見もあったが、2校に投票用紙の書式等を考えてきてもらうということでよいと思うが、いかがか。

〈委員一同〉 異議なし。

議題（２） 次回開催日時・場所について

〈菅原議長〉 それでは、次に議題（２）「次回開催日時・場所」について事務局から説明をお願いする。

〈事務局〉 次回の開催は、毎週水曜日に開催してきたこれまでの経緯を踏まえて、次回は1月24日水曜日、会場は千城台公民館大ホールにて開催することとして提案させていただきたい。なお、開催時刻について、このところ18時30分という時刻がなかなかお集まりいただくのが厳しい現状があるように思う。北小・西小から丁寧に説明いただき、投票方法をご理解いただいた上で投票を行っていただくということを考えて、18時30分ではなく19時からとさせていただくのはどうか。

〈角田会長〉 プレゼンを実施した後に、少し考えてもらう時間を設ける必要があるので、今までどおりでもよいと思うがどうか。

〈山崎副会長〉 18時30分では定刻に出席できない委員が多かった直近の状況がある。

〈事務局〉 次回に限って、1月24日水曜日19時から千城台公民館において開催するということでよろしいか。

(※後日全委員了承の上、開催予定日を1月31日(水)に変更)

〈菅原議長〉 ただ今事務局から提案された日程でよいか。

〈委員一同〉 異議なし

(3) 連 絡

- ・協議会の状況を各所属団体へ伝達いただき、投票への意見集約としてご協力をお願いしたい。
- ・内容整理の上、後日議事録要旨(案)を送付させていただき、確認終了後にホームページに掲載する。
- ・今回は重要事項を決定する場となるため、時間厳守で委員の出席をお願いしたい。万一欠席される場合は、内容を全て伝達いただいたうえで代理としていただきたい。極力委任というかたちがないようご協力をお願いしたい。
- ・次回1月下旬の開催の後、北小・西小での説明会もあることから、次回開催が今年度最終となる予定である。

〈委員一同〉 質問等なし

(4) 会長挨拶(角田会長)

本日は15分ほど冒頭に遅れるかたちとなり申し訳なかった。本日は中身の濃い議論ができたと思う。これで大きな前進になったかと思うので、今後は、南小・旭小については子どもたちにとってよりよい学校ができるよう交流を深めていただき、いろいろな意見を出して、新しい学校づくりに力を注いでいただきたい。西小・北小については、本日投票という結果になったが、PTA会長を始め本部の方も苦しい思いをしながら、2か月間にわたる7回の2校連絡会を重ねてきたわけである。これは8年間の地元代表協議会が、全ては千城台地区の子どもたちのためという大きな方針の下に委員に参加いただいているためであり、今後もこの方針を変えることなく、良い方へ皆さんと向かっていけたらと思う。今後ともよろしくをお願いしたい。

(5) 企画課長挨拶(伊原課長)

千城台地区の子どもたちと地域の発展のために大変な決断をいただいたと思う。大きな前進があったと感じている。特に北小・西小の2校におかれては子どもたちのため率直なご意見を述べていただき、委員からも貴重な助言をいただいたと思っている。事務局としても、今後北小・西小と共に次回全体会での決定に向けて、委員の皆さんが納得できるようなプレゼン及び投票となるよう、全力で支援を行っていくので、今後ともご協力をお願いしたい。